

誌上舞台

落語

江戸中期に成立した身振りや語りだけで物語を進める話芸。上方落語と江戸落語によって演目や道具、慣習が異なる。滑稽、人情、芝居、芝居、芝居などもある。

名奉行を唸らせた、とんち小僧 佐々木裁き

案内人 笑福亭學光

名奉行といえは「遠山の金さん」や「大岡越前」が有名ですけど、大坂にも佐々木信濃守という方がいてはるんですよ。嘉永年間に東町奉行をしていた実在の人物で、落語では西町奉行として登場します。



住まいのミュージアム「大阪くらしの今昔館」
地下鉄・阪急「天神橋筋六丁目」下車すぐ

東町奉行所は今の大阪合同庁舎1号館、西町奉行所は大阪商工会議所のあたりにあつたそうです。

この斬には、「四郎吉は信濃守に養育され、後に与力として出世した」と結ぶんと、役人の綱紀肅正と四郎吉が桶屋の息子であることを引つけて「籠を締めた」とサゲる、2種類あります。私が先代の故・桂歌之助兄さんから習ったのは籠のほう。四郎吉が大人になる時は明治で、奉行所は無くなつてきたオチですけど、木桶を知らん人には難しいやろなあ。

「大阪くらしの今昔館」には江戸時代の商家や長屋が原寸大で再現されていて古い道具も置いてありますから、若い方は籠のはまった木桶を確かめてみてください。オチの意味がわかりますよ。先に結末バラしましたけど、この斬は奉行と四郎吉のやりとりが聞きどころ。父と母のいずれが好きかと聞かれた四郎吉、饅頭を二つに割って「どっちがうまいと思えますか」とかね。「休さんみたい！子どもは誰しも大人が考えつかん発想したり面白いですよ」と言ったりしますよ。私よう小学校で公演するんですけど、低学年の子ほど

物怖じせん」と「オッチャン何者？」って話しかけてくるんです。で、ある子に「何やと思う？」って聞いたら「お地藏さん」やっつて!!

四郎吉は楽しみながら演じられるんですが、侍言葉には苦心しています。例えばお白州に四郎吉を呼び出した信濃守が「同出ておりますか」と問う場面。時代劇みたいに「出ませ！」なんて威圧せえんのです。何ででしょ？歌之助兄さんが言うてました、「四郎吉は罪人とちやうからや」って。奥が深いでしょ。落語はビデオでも覚えられますけど、教わらんとわからんこと多いはい。人から人へ伝える習わし、大事にしていきたいですね。

物語のあらすじ

落語「佐々木裁き」

住友の浜で、お白州ごっこに興じている子どもたちの様子を眺めていた西町奉行の佐々木信濃守は、奉行役の四郎吉の知恵に感心し、家来に奉行所まで連れてくるよう命じます。四郎吉の父親は「お咎めを受けるのでは」と案じますが、当の四郎吉はお白州に出てもまったく平気。奉行が繰り出す難問奇問にとんちで答え、居並ぶ役人たちを唸らせます。この斬は明治二〇年代、三代目笑福亭松鶴が講釈種を元に作ったと言われています。後に東京にも伝わり、江戸落語では「佐々木政談」「池田大助」として演じられています。

落語家

笑福亭學光



徳島県出身。昭和50年笑福亭鶴光師に入門し、52年に初舞台。多彩なレパートリーを持ち、玉すだれや腹話術（人形の名は笑福亭小学光）も得意。笑いを健康に生かす「お笑い福祉士」の提唱をはじめ、「四国」の観光を考える100人委員会委員、阿波踊り「はなしか連」主宰など幅広い分野で活躍する。著書に中国でのボランティア体験を綴った『學光学校』浪速社。ブログは <http://www.dios-kitsenri.co.jp/awadon/>

落語を聴きに行きませんか

● 町家寄席

12月7日(日)・平成21年1月11日(日)
14時10分〜15時10分 入館料のみ
会場／大阪くらしの今昔館
交通／地下鉄・阪急「天神橋筋六丁目」下車
☎06-6242-1170

● オーク弁天寄席

毎月第4水曜日19時〜20時30分無料
出演／笑福亭學光、旭堂南麟 他
会場／弁天町市民学習センター
交通／JR・地下鉄「弁天町」下車
☎06-6577-1430

● オーク弁天寄席 in 繁昌亭

平成21年1月28日(水)10時〜2500円
出演／笑福亭學光、旭堂南麟 他
会場／天満天神繁昌亭
交通／JR「天満橋」地下鉄「南森町」下車
☎06-6335-214874